

会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和5年度第1回相模原市子ども・子育て会議		
事務局 (担当課)		こども・若者未来局 こども・若者政策課 電話042-769-8315 (直通)		
開催日時		令和5年5月24日(水) 午後6時から午後8時00分		
開催場所		現地出席とオンライン出席によるハイブリッド開催 (現地会場：相模原市役所本庁舎2階 第一特別会議室)		
出席者	委員	14人(別紙のとおり)		
	その他	0人		
	事務局	7人(こども・若者未来局長、こども家庭支援担当部長ほか5人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	2人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 開 会 2 あいさつ 3 自己紹介 4 会長・副会長の選出 5 諮 問 6 議 題 次期子ども・子育て支援事業計画の策定について 7 閉 会		

1 開 会

2 あいさつ（こども・若者未来局長）

3 自己紹介

4 会長・副会長の選出

相模原市子ども・子育て会議条例第4条第1項に基づき、委員の互選により会長に片山委員、副会長に園田委員が選出された。

5 諮 問

次期相模原市子ども・子育て支援事業計画を策定することについて、市から会長に諮問した。

6 議 題

・次期子ども・子育て支援事業計画の策定について

次期子ども・子育て支援事業計画の策定に向け、計画の位置付けやスケジュールを説明した。また、資料として提示した市民アンケート調査の内容について意見をいただくとともに、6月21日まで意見を募集する旨を説明した。委員からの意見、質疑応答は次のとおり。

（布施委員）前回（平成30年度）のアンケートでは、どれだけの回収率だったのか。また、前は紙の調査票を郵送したようだが、今回はどういった方法を考えているか。

（事務局）まだ未調整ではあるが、例えば子どもたちに送るアンケートは、学校で使用しているタブレットで配信する等、それぞれの世代の方々が答えやすい方法を検討していきたい。

（布施委員）少しでも回収率を上げるのであれば、紙の調査票とウェブでの調査の両建てで考えるべきだと思う。

（事務局）前回の調査の回答率については、お手元の「さがみはら子ども応援プラン～第2次相模原市子ども・子育て支援事業計画～」149ページに記載があるとおりの結果である。

（布施委員）対象者の抽出にあたっては、何か条件を付したのか。

（事務局）住民基本台帳からの無作為抽出である。

（布施委員）件数の妥当性はどうか。

(事務局) 統計学的に傾向を測ることができる件数で実施した。

(布施委員) 人口が減少し、調査対象者が減少していくということを考えると、今後調査数は減るのか。

(事務局) 本市では転入世帯は増えているという実態もあることから、市の人口自体は大きな減少に転じておらず、大体横ばいと言ったところである。アンケートの実施方法についても、前回調査時にはウェブ形式のアンケートができる機能を市で持っていなかったが、現在は市の機能として利用できるものがあるため、フル活用していきたいと考えている。

(布施委員) ウェブを活用することのもう一つの利点は、速報値を見ることができる点もあると思う。

(会長) 子ども本人への質問で、生活状況や家庭での自分の居場所等に関する質問は配慮が必要な項目である。前は家庭を通して答えてもらう方式を取っていたが、今回は直接子どもに聞く工夫ができるということは、随分進んだのではないか。子ども基本法では、子どもの声を聞くことの重要性が前面に出されており、こういったアンケートにおいても今あるものを有効に活用していければと思うが、他の委員はいかがか。

(朝比奈委員) 子どもだけではなく、保護者もすでに若い世代であり、スマートフォンでアンケートに答えることには慣れている。QRコードから回答できたり、回答方法を選べる等の工夫はされた方が良いと思う。特に、前回の回答率を見ると青年男女が低い。20～30代が答えやすいようにした方が良いのではないか。

(事務局) 前は紙のアンケート調査票を用いた調査だったことで、この世代の回答率が低くなったと考えている。これから子育てをしたり、家庭を持つ方の意見は大変貴重であるため、回答率が上がるような工夫をするつもりである。

(永保委員) 前回のアンケート調査時も委員であったため、その時の記憶があるが、このアンケート調査は国の共通項目と市の独自項目というのがあった。国の共通項目をこちらの判断で削っても意味がないため、委員が確認する時点で市の独自質問に印をつけてもらった記憶がある。

(事務局) この質問が国の共通項目だということは、改めてお示ししたい。

(永保委員) 国の共通項目については議論の余地がないという話になった記憶があるため、ぜひ教えていただきたい。

また、市が今後5年間で力を入れていきたいと思うことに関する質問項目を、各担当課から提案してもらいたいと思うが、いかがか。市として聞きたい項目が新たな質問項目としてこの会議に提案されると、日々携わってくださる職員の方の思いも含めて検討できると思うので、ぜひ提案してもらいたい。

(事務局) この計画の策定のために、庁内で新しい会議を設けて検討していくところである。今回会議の資料として、前回のアンケート調査票を委員の皆さんに配布し

たが、庁内でも並行して意見を募る。次回は、委員の意見と庁内からの意見を合わせ、一つの案としてお示ししたいと思っている。次回開催予定の7月の会議では、こども大綱が示されていない中で詰めていくことになるが、大綱を受けて新しく調査をしなければならない事項が出てくれば、タイミングによっては追加を検討していくものと考えている。

(永保委員) まずは、この質問は重複してしまうかもなんて気を遣わずに各課から出していただきたい。同じ質問が複数出てきたということは各課の熱のこもった質問であると思う。

また、これは先の話かもしれないが、施設・事業所に対しては前回ヒアリング調査を実施したが、今回はアンケート調査を行うということである。ニーズを拾うということと、施設が質を高めることは矛盾する場合もある。私は保育の立場から申し上げるが、何でも受け入れることを最優先にこの何年間か進んできた一方で、幼児につながる事故が起きている。ニーズ調査をするのであれば、保育のプロにも意見を聞いていただきたいと思うが、施設は大変な思いをしながら運営しているため、ただアンケートをすると愚痴が出てくるだけになりかねない。保育施設だけではなく、学童保育等も含め、「現状をどう思っているか」といった項目だけではなく、「質の向上のためにはどういうことが必要だと思うか」という建設的で前向きな意見が聞けるようなアンケートを考えていただく必要があると思う。

(事務局) まずは市民向けのアンケートから決めていきたいが、永保委員のご意見を踏まえ施設向けのアンケートについても検討を進める。今後も皆さんからご意見をいただきたい。

(朝比奈委員) ヒアリングだと初めから対象数が少なくなるが、デジタルの活用を考えるのであれば、もっと広く調査できるのではないか。また集計も楽なのではないか。なるべく広く意見を聞けるアンケートになるよう工夫していただきたいと思う。

(布施委員) まだ市民アンケートの中身を見きれていないが、資料のボリュームの差が気になっている。個人的に、こんなにボリュームのあるものを答えてくださいというのは非常にハードルが高いのではないかと思う。減らせという話ではなく、この問数が必要ならば答えやすい形に持って行かなければならない。先ほども発言したI o Tの活用という話だが、途中で回答が保存されて、途中から始めることができる仕組みが必要だと思う。

また、難しいかもしれないが、小学校や中学校で子どもたちにアンケートに協力してもらうための時間を取っていただけないのか。家で回答することを考えると保護者が持つインターネット環境がポイントになるが、例えば広報紙にQRコードを載せて対象の人に周知するとか、色々な形でアンケートの回答数を上げることを考えていかないといけないのではないかと感じた。

(押田委員) 私自身も色々なアンケートに答えることがあるが、ワクワクしない。このアンケートの答えが、何に活かされているのかなと毎回思う。こういったアンケートは、回答者がワクワクできることが回答する動機づけになると思う。例えば、前回のアンケートからこういう施策に繋がりました、こういう結果が出ましたということアンケートの最初の概要欄等に載せる。そうすると、自分が答えたことがこういう風につながっていくとイメージでき、ワクワク感につながるのではないかなと思う。

(園田副会長) 調査対象のカテゴリーはもう決定しているものなのか。

(事務局) まだ確定していない。ただ、前回の調査からどう変わったかというような資料も必要な場合もあるかもしれないため、次回には目的と対象をお示しできればと思う。

(園田副会長) 内容は今後また検討するということだが、量的な分析、つまり数値化される項目が多い。量的な分析は、全体的な傾向を出すにあたっては信頼性が適正で優れており、その手法が大切だろうということがある。一方で、少数派の意見が反映されにくいというデメリットがある。ひとり親家庭を対象とした調査があるが、少数派はひとり親家庭だけではない。全体的な傾向を見ることは大切なことだが、こども家庭庁の基本方針でもある一人も取り残さないということ踏まえると、少数派の意見をどうくみ取るかを考えないと少数派の意見が反映されにくいという印象を持った。少しご検討いただけるか。

(事務局) 少数意見をどうくみ取るかということは、どんなアンケートでも一番悩むところでもある。こうやれば少数の意見を取ることができるという知恵が皆さんにあれば、ぜひ組み入れていきたいと考えている。おっしゃるとおり、ひとり親家庭ではなくとも苦しい世帯はある。個人情報保護の観点とのせめぎ合いもあるかもしれないが、少し前向きに考えたい。

7 閉 会

以 上

相模原市子ども・子育て会議委員名簿

(五十音順)

氏 名	推 薦 団 体 等	出 欠
あさひな たろう 朝比奈 太郎	相模原市私立保育園・認定こども園園長会	出 席
あんざい しゅんいち 安 西 俊 一	相模原市学童保育連絡協議会	出 席
いしい やすこ 石 井 康 子	みらい子育てネットさがみはら連絡協議会	出 席
おしだ ゆうすけ 押 田 裕 輔	公募市民	出 席
かたやま ともこ 片 山 知 子	元 和泉短期大学児童福祉学科教授	出 席
こいずみ いさむ 小 泉 勇	相模原市立中学校長会	出 席
そのだ いわお 園 田 巖	東京都市大学人間科学部准教授	出 席
たがわ つぐよ 田 川 継 世	一般社団法人 相模原市ひとり親家庭福祉協議会	出 席
ながほ たかあき 永 保 貴 章	一般社団法人 相模原市幼稚園・認定こども園協会	出 席
のぐち かずよ 野 口 和 代	特定非営利活動法人 相模原市障害児者福祉団体連絡協議会	出 席
ば ば まゆみ 馬 場 眞由美	相模原市民生委員児童委員協議会	出 席
はやさか あつし 早 坂 淳 史	日本労働組合総連合会神奈川県連合会 相模原地域連合	出 席
ふ せ あきよし 布 施 昭 愛	相模原商工会議所	出 席
みうら ともり 三 浦 友 則	相模原保育室連絡協議会	出 席
募集中	公募市民 (任期：6月1日～)	—